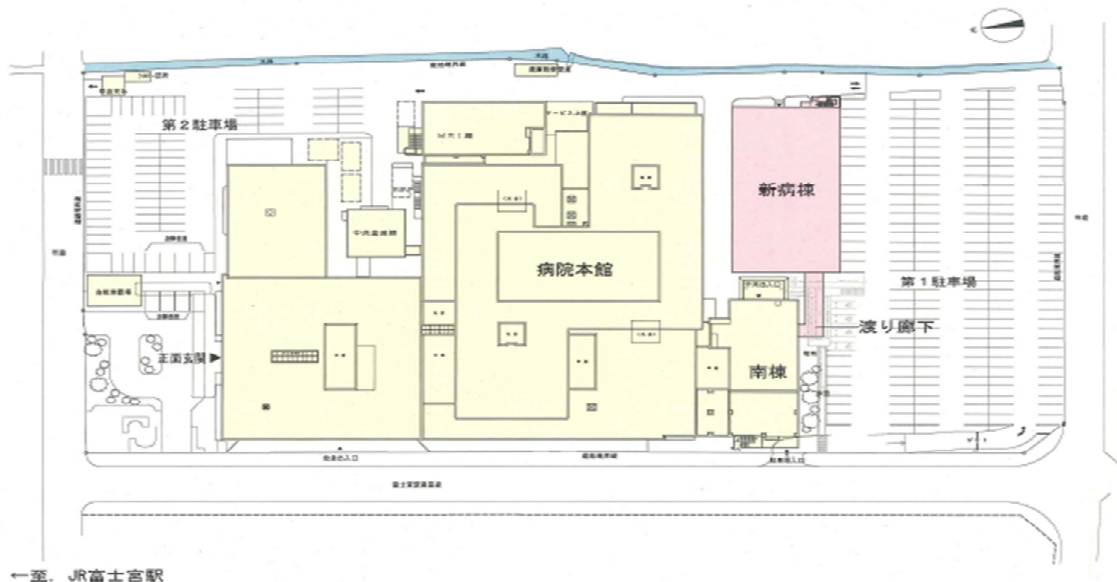


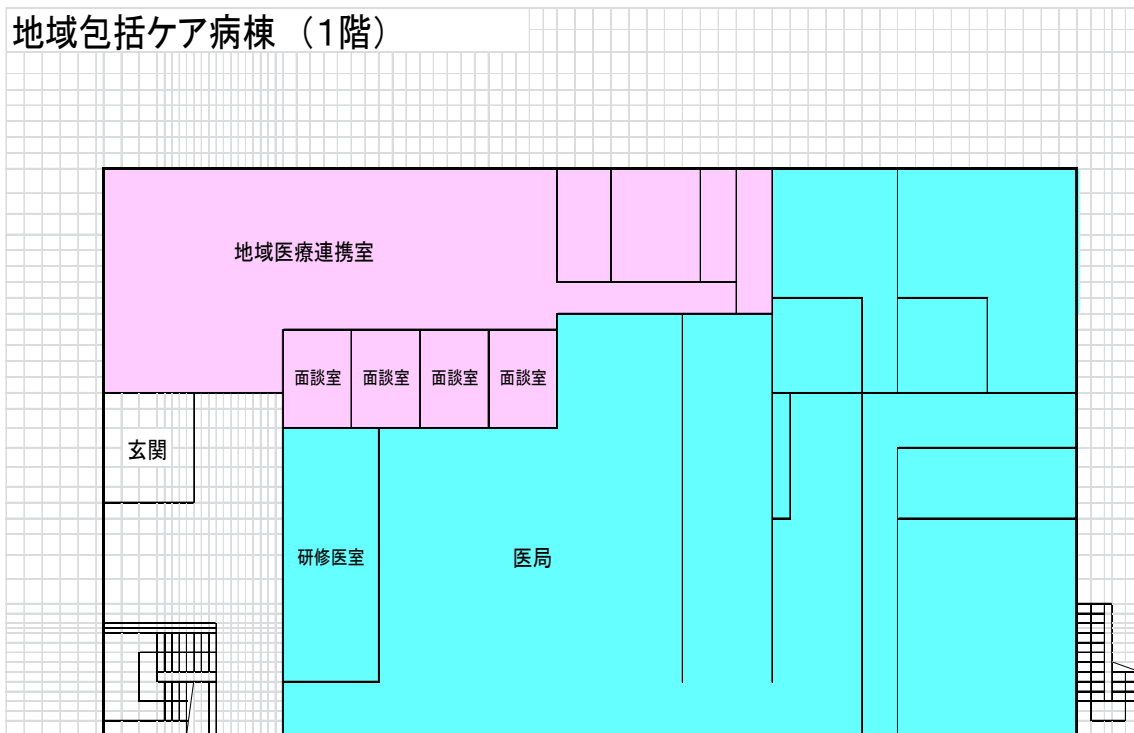
富士宮市立病院地域包括ケア病棟 概要

■ 配置図

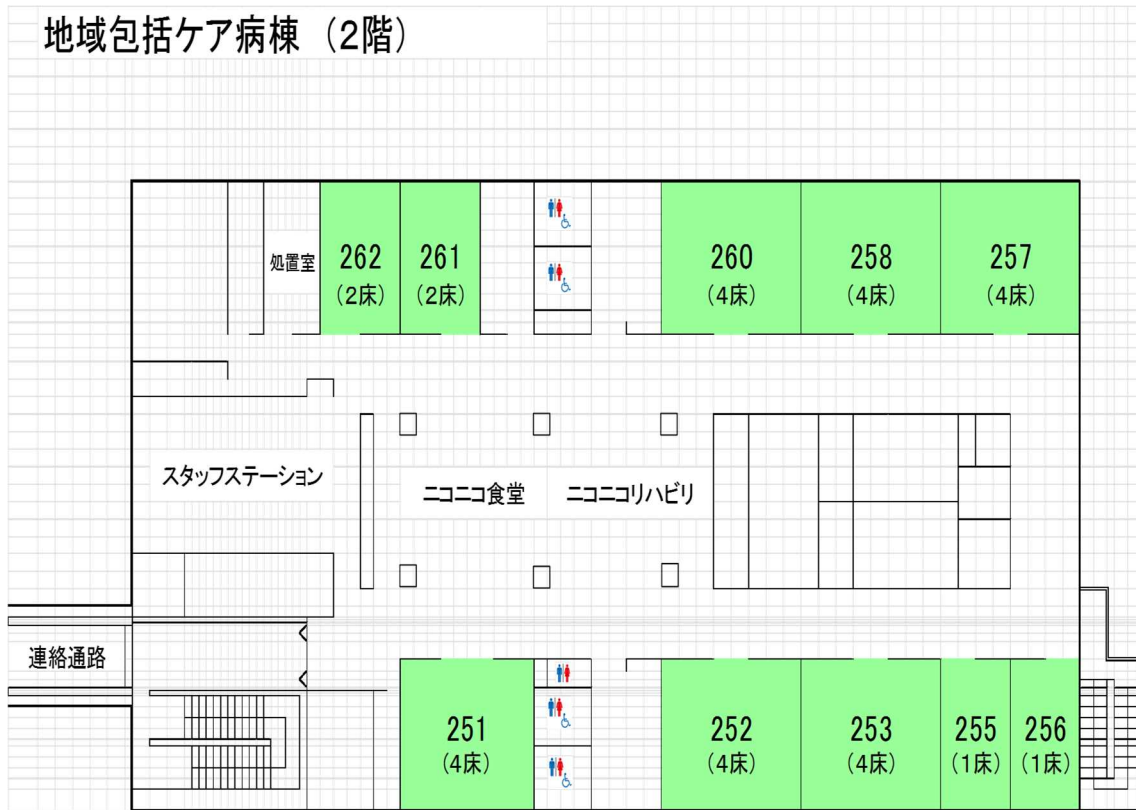


【1階 平面図】

地域包括ケア病棟（1階）



【2階 平面図】



1 施設概要

3階 機械室、屋上設備置場

2階 病棟 30床（4床部屋：6部屋、2床部屋：2部屋、1床部屋：2部屋）

1階 医局、地域医療連携室

2 規模・構造

（病棟）鉄筋コンクリート造 （渡り廊下）鉄骨造

地上3階建て、高さ13.40m

3 建築面積 999.76㎡

4 延床面積 1,926.56㎡

1階 907.21㎡ 2階 970.34㎡ 3階 49.01㎡

5 費用関係

(1) 設計・監理

委託内容	委託業者	委託料(円)
設計	株式会社 梓設計 中部支店	46,934,600
監理	同上	15,120,000
合	計	62,054,600

(2) 工事名：平成30年・31年度地域包括ケア病棟建設工事

工期：平成30年7月～令和元年7月

工事区分	受注者	請負代金(円)
建築工事	大石・明德特定建設工事共同企業体	556,524,000
電気設備工事	マコト・富士宮特定建設工事共同企業体	168,804,000
機械設備工事	菱和設備・小野田特定建設工事共同企業体	199,800,000
合	計	925,128,000

<地域包括ケア病棟を建築することに至った経緯>

地域包括ケア病棟は、平成26年度診療報酬改定により新たに認められた病棟として、当院では従来整形外科病棟として使用していた病棟を、整形外科診療体制縮小を契機に平成26年5月より「地域包括ケア病棟」(回復期病棟)として使用して来ました。

その後、整形外科医師の充足が見込まれることが確実となってきたこと、また、急速な高齢化社会が進む中、「地域医療構想」のなかでも「回復期病棟」がこれからの医療資源には必要なことは明らかなことから、「整形外科病棟」「地域包括ケア病棟」の両立を図るため新病棟の建設事業を進めることとなりました。

平成 30 年 7 月に着工して、令和元年 7 月に完成して、法定検査やその後の機器、備品を搬入して今日を迎えることとなりました。

＜地域包括ケア病棟とは＞

急性期治療を終了し、直ぐに在宅や施設へ移行するには不安のある患者さんや在宅・介護施設など他施設療養中から緊急入院した患者さんに対して、在宅復帰に向けた診療、看護等を行なうことを目的とした病棟です。

在宅復帰を円滑に行うために「在宅復帰支援計画」に基づいて、主治医、看護師、リハビリスタッフ、退院支援担当者（社会福祉士）等が協力して、効率的に患者さんの退院支援（相談・準備）等を行っています。入院期間は、急性期病棟が平均在院日数 18 日以内と定められていますが、当該病棟は 60 日以内となっています。

＜急性期病棟から地域包括ケア病棟に転棟が可能な患者＞

- (1) 急性期の治療（骨折・各手術・肺炎等）後も退院を目指したリハビリテーションが必要な方やもう少し経過観察が必要になる方
- (2) 症状が安定し、在宅復帰に向けてリハビリテーションが必要な方
- (3) 在宅復帰に向けて療養準備が必要な方
- (4) レスパイトが必要な方

※レスパイトとは、“一時休止”、“休息”という意味です。

介護者の日々の疲れ、冠婚葬祭、旅行などの事情により、一時的に在宅介護が困難となる場合に期間を設けた入院の受け入れを行い、介護者の負担軽減（息抜き）を目指す仕組みです。当院では、在宅で常時の医療管

理および介護が必要な方を対象としたレスパイト入院に対応していく予定です。



〈回復期リハビリテーション病棟との違い〉

回復期リハビリテーション病棟では、脳血管疾患、大腿骨・骨盤等の骨折、胸腹部手術などの急性期治療を終えて症状が安定した患者に対し、集中的リハビリテーションを行う病棟です。

地域包括ケア病棟は、病名に関係なく入院できる病棟で、患者の病状に応じて包括的にリハビリテーションを提供します。どちらの病棟も在宅復帰を第一に目指すという目的は同じです。

以 上